

師走の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様には、恙なくお過ごしのことと大慶に存じます。今年の夏は殊の外暑く国内外では異常気象が発生して、宮崎では師走を迎えても尚、暖冬が続いているようです。

先月はプライベートも含めての県外出張が多く東北の福島県や新潟県、或いは東京経由で京都の紅葉を楽しむ機会等に恵まれましたが、聞きしに勝る京都のインバウンド需要は正に恐るべしで、ほぼ全国的にオーバーツーリズムの様相を呈しており、皆様も県内外の有名観光地に出掛ける際は努々覚悟の上、細心の準備をしての御出立をお勧めします。

さて先月の自衛隊行事は、18日東京の武道館で4年ぶりに開催された「自衛隊音楽祭」を家内と孫3人で堪能し感動したところです。公演は全5部構成で、第1章は陸自空自のセントラルバンドによる華麗な演奏とドリル、そしてあの歌姫の独唱等で開幕しました。

第2章は初参加の「マレーシア軍中央音楽隊」や「米第3海兵機動展開部隊音楽隊」、また離日のため今回ファイナルステージとなった「在日米陸軍軍楽隊」等が愉快で派手なパフォーマンス等を繰り広げ、第3章では防大儀仗隊のファンシードリルに溜息しました。

第4章は毎回総勢200人が打ち鳴らす「自衛太鼓」の壮絶な響きに身も心も揺さぶられ、フィナーレは全出演部隊による盛大な演出で閉幕を迎えましたが、最後の「演技支援隊」の紹介では嘗て私が所属した32連隊隊員が誇らしげに敬礼して目頭が熱くなった処です。

また22日は川南護国神社の秋季例大祭前夜祭に参加したところ、習志野第1空挺団の各大隊長を始め北熊本の第8副師団長等、空挺部隊関係者等の現役自衛官多数が列席され、流石「精鋭無比」を標榜する落下傘兵達の頼もしい飲みっぷりに驚嘆した次第です。

翌23日、昨夜は似合わぬ背広姿の空挺隊員が凛々しい制服姿に衣替えして、左胸には燦然と輝くレンジャーバッジとウィングマークを佩用し、颯爽と行進する様に改めて見惚れて、50年前の自分もこのように見られていたのかと思うと何か面映ゆい心持ちでした。

川南出身の戦没者約700柱、陸軍第1～3空挺連隊約12000柱を祀る川南護国神社は、唐瀬原降下場や新田原飛行場と共に空挺隊員の聖地であり、毎年11月23日の秋季例大祭に併せて全国各地の「全日本空挺同志会」会員も参集する一大イベントとなりました。

川南病院に今も残る給水塔は当時のままで、パレンバンの大活躍や沖縄戦で散華された義烈空挺隊員も、川南の大空や大地で猛訓練を重ね、汗を流されて来られたのでしょうか。

さて来年2月17日はスカイタワーホテルで支部総会を開催しますので、皆様との再会が楽しみです。そしていよいよ支部長交代の時期と相成りました。呉々もご自愛下さい。

令和5年12月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦